とうきょう すくわくプログラム活動報告書

| | |
|---|---|
| 施設番号 | 66-0263 |
| 施設名 | 光明第一保育園 |
| 施設所在地 | 八王子市八木町８－11 |
| 法人名 | 社会福祉法人多摩養育園 |

１．活動のテーマ　《遊びと命》

＜テーマの設定理由＞
本園では保育士をはじめ、調理師や看護師、事務員、用務員、有期正規問わず全職員が毎月理念と現場での実践を振り返り、子どもの今の姿や自身の考えを共有する一円対話という場を設けている。一円対話の中で一人の職員から「園の普段の遊びの中で草花を使った色水遊びなどの遊びを体験することが出来ていない」という一言が挙がった。それぞれの思いを聞いていくと、「命の大切さを伝えたい」という思いはみな同じであったが本園の保育方針の４つの柱の一つ、“自然“の中のいのちに重きを置きすぎてしまい、園庭や公園に出た際「花にも命があるから摘まないようにしよう」という声掛けが生まれていた。結果的に興味を持った子どもが草花を摘んで色水を作る姿や花かんむりの製作をしたり、押し花をしたりといった様々な動植物に自ら触れ、「これはなんだろう」「調べてみよう」「試してみよう」という探究心を持つ機会が自然と失われてしまっていたことから、今回「遊びと命」にテーマを置き子どもたちの言葉やアイデアを取り入れながら活動を発展させていった。

２．活動スケジュール（３・４・５歳児）
カスミソウの色染め実験から花や色の変化に興味をもっていた子ども達たち。子どもたちの「どうして」「どうなるんだろう」という声から活動を広げていった。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定
〇カスミソウ色染め実験
・カスミソウ
・コピーインク
〇花をつぶしてみたら
透明コップ
〇色水づくり
・顕微鏡
・ビニール袋
・卵パック

４．探究活動の実践
＜活動の内容＞
〇カスミソウ色染め実験　〇花をつぶしてみたら　〇色水づくり

○カスミソウの色水実験（７月２３日（火））
絵の具の色を混ぜた色水遊びからの繋がりと、華道で活けたことのあるカスミソウを使って水を吸い上げる不思議さと植物の仕組みに触れられるよう、カスミソウの色染めを保育室で行った。
子どもたちの声は様々で、「どうして色がつくんだろう？」「魔法みたい」と驚く子から「茎から色を吸っているんだよ」「華道の時に水を沢山吸えるように茎を斜めに切るよね」という子がいた。
２０分ほどで色付くカスミソウに興味津々の様子だった。

カスミソウが色付くのを見ていた年長児の子から「どうして茎を切ったのに吸うことができるんだろう？」との疑問があがった。隣で様子を見ていた子が「生きるのに水が必要だから水があれば切っても生きられるんだよ」と自分なりの考えを話していた。

○花を潰してみたら（８月５日（月））
　園庭で黄色い花を見つけると「この花から黄色い水がでてくるのかな」と話していた。保育者の「実験してみよう」との言葉から透明のコップに水と花を入れて観察を行った。
しばらく観察していたが、水の色は変わらなかった。

隣で様子を見ていた子がシャベルを持ってきて花を潰し始めると水の色が変化し「黄色になった！」と話していた。

花を潰そうと考えた理由を保育者に問いかけられると「潰すと色が出ると思ったから」と話していた。
「花の色はどこからくるのかな」と保育者が話すと花を見つめ「真ん中の黄色い所から作られるんだと思う」と自分なりに考えたことを話していた。

（2月3日（月））
〇室内でも生き物や自然物に目の前で触れることが出来るよう室内に STEM コーナーを設置した。

STEM コーナー

（2月１３日（木））
・色水づくり
子ども「お花で色水作りたい」
保育者「そうだね、やってみよう」
子ども…ビニール袋に花びらと水を入れて揉む。

子ども「水がピンク色になってきた！」
子ども「水に薄く色がついている！」
子ども「花びらの色が薄くなってる！」
保育者「ほんとうだ、花びらの色薄くなってるね！どうしてだろう…？」

子ども「大きくして見てみたい！」
子ども…顕微鏡を指さす
子ども「透明になってる！」
子ども「透けて見える！」
子ども「水に色が移ったんだね」

5．振り返り
＜振り返りによって得た先生の気づき＞

「カスミソウの色染め」というコピーインクを使ったSTEM実験での場面では同じ活動の中であったが、不思議さに驚き、自分の言葉で驚きを表現していた姿が見られた。また、疑問を持つと理由や仕組みを自分なりに考えて見つけようとしていた。「どうして」といった疑問を口にする子やこれまでの経験や知識から理由付けをして子どもたち同士で考えを共有する姿が見られた。カスミソウの染色実験を行ったことがきっかけとなり翌日に園庭に咲く黄色の花を摘んで色水実験を行った。色染めをしたことにより、子どもたちから花びらから色が出てくるかもしれないとの予想の声が上がり活動へと繋がっていった。
これまでの遊びの中での経験が子どもの予想やアイデア、さらなる疑問へと繋がっていることがより強く感じられた。
子どもたちの姿から室内でも生き物や自然物などの「いのち」により近く触れることが出来るようSTEMコーナーを設けると「何故」や「不思議」が広がり、疑問から「やってみたい」といった姿が多くみられるようになってきた。
　華道で活けた花が枯れていた為保育者が処分しようとしていた時に子どもたち声を掛けてきた。以前園庭に咲いている花を使って色水を作って遊んだことを覚えていたようで、色水遊びをしたいと声が上がった。初めは段々と色づく水に興味を示していたが、その後花びらの変化にも気づいていた。花びら一つとっても子どもたちの興味や発見は無限に広がることを子どもたちの姿から感じ取ることが出来た。今回は、子どもたちの言葉を吸い上げすぐに実験に移すことができた。その為、子どもたちが夢中になって取り組むことが出来ていたのではないかと感じる。今後も保育者は子どもたちの声を拾えるようにアンテナをはって保育をしていきたい。子どもたちの声からは「花の命の大切さ」も理解していることが伺えた。

２．活動スケジュール（乳児）
自然物をより身近に観察できるようルーペを購入し、子どもが興味を示した自然物等を拡大して観察出来るようルーペを戸外遊びの際に使用した。

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定
・ルーペ
・砂
・小石
・落ち葉

４．探究活動の実践
ルーペを用いた自然物の観察、アリ探し（２月２１日（金））

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞
ルーペを用いて小石を観察していると興味を持ってルーペを覗き込んでいた。

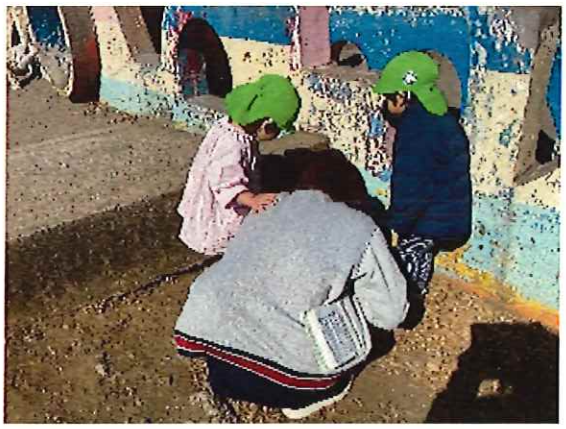
・小石の拡大

・小石の拡大

子ども「おおきい！」
保育者「すごいね！　大きく見えるようになるんだね」
「他の物はどう見えるのかな？」と声を掛けられると小石や砂、落ち葉など好きな自然物を持ってきて「これ！」と保育者へ手渡していた。
子ども「これも見てみる」
ルーペを覗き込むと驚いたように保育者の顔を見たり、友だちへ笑顔を向けていた。

・アリ探し
子どもたちへ「なにが見てみたい？」と問いかけ子どもたちが持ってくる落ち葉などを観察していた。

保育者に「虫を見てみたいね」と声を掛けられると、「アリさんいるかな？」とアリ探しが始まった。
「アリはこんなところにいたよ」と縁石と砂の間を探している子がおり、以前アリを見つけた場所を友だちや保育者に話していた。



様子を見ていた子が「アリさんって土の中に居るんだよ」と話すと「ここにいるかも」と友だちと砂場の砂を掘ってあり探しをしていた。

この日はアリは見つからなかったが探していた子どもたちが「また今度アリさん見つかるといいね」と話していた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

ルーペで自然物を拡大して見てみると、「おおきい！」と言葉で表現する子や驚きの表情で保育者を見たり隣にいる友だちへ笑顔を向ける姿が見られた。また大きく見える事が分かると「これはどう見えるんだろう」「これも見てみたい」というように小石や砂、落ち葉などを自分で見つけて持ってきていた。

驚きや面白さを共有しようと友だちの顔を見たり、直ぐに新たなものを探してきたりする様子が見られ、保育者はその思いや不思議さを共感しながら受け止めていった。

アリ探しでは生き物が好きな子どもたちの様子から「虫を見てみたいね」と話をすると、以前アリをどこで見つけたのか、どんな所に居たのかと思い出したり、友だちへ話して一緒に探したりする姿が見られた。「アリはこんな所にいたよ」など子どもの言葉に保育者も「そうなんだ」と同じ目線で受け止め、一緒に探していると周りの子も記憶している事を表現したり予想を立てたりしながら活動が広がっていた。

肉眼より大きく見えるルーペを用いたことで普段見ている自然物の面白い見え方に気付いていた子どもたち。友だちとのやりとりや会話も少しずつ広がってきており、今後も驚きや発見した喜びなど保育者も同じ目線で共有し受け止めながら面白さや不思議さに気付く体験を積み重ねていきたい。

以上